

# 「みのぶゆばブランドの

# 知名度向上へ。」



設立 / 平成5年7月7日  
所在地 / 山梨県南巨摩郡身延町相又425-1  
理事長 / 市川正人  
組合員数 / 21人 職員数 / 1人  
出資金 / 8,000千円  
TEL / 0556-62-6161  
FAX / 0556-62-6162  
URL / <http://www.minobuyuba.jp/>



組合事務局

# Hello!

「みのぶゆば」の特産品と地域農業の振興による  
地域活性化を図るため設立された、企業組合みのぶゆばの里とよおか。  
組合が運営している施設を利用した農産品の販売や  
ゆばの製造体験などを行っている。  
今回は、千頭和専務理事にお話を伺いました。

Q 組合の活動は？

組合名のとおり、生ゆばの製造・販売に加え、みのぶゆばの特徴である「生ゆば」をふんだんに使用した食事をお客様に提供しています。また、ゆばの製造体験や商工会の女性部によるコロッケの販売、地域住民が栽培した農産物の加工品、山菜なども販売しています。ゆばを引き上げて残った、濃度の高い豆乳で作るソフトクリームやプリンも人気の商品です。

Q 事務局として心がけていることは？

組合が地域住民と協業し、どのような形で地域に貢献できるかを念頭に置きながら組合運営をしています。現在、地元の農家に組合が受け持つ施設を貸し出し、農産品の販路は確保していますが、今後は、集落ごとにグループ化し、そのグループが製造する農産加工品を販売するための、コミュニティービジネスの立ち上げの手助けも考えています。

Q 事務局で困っていることは？

近い将来、中部横断道路が開通となり、国道52号線沿いにある当施設の利用客の減少が想定されます。また、組合運営への影響も懸念されますが、ゆばなどの品物は別の場所でも販売できますので、ゆばの製造・販売には大きな影響は生じてこないと思います。当初の設立目的である地域の活性化を実現していくことは難しくなるでしょう。

Q 事務局でうれしかったことは？

今まで農家の方たちは、自分の畑で育てた野菜は自己消費するだけでしたが、当施設が場所を提供し、農産品を販売する環境が整ったことで、今では78軒の農家が自分で造った野菜等を持ち込み、販売を行っています。お年寄りが農業をすることの楽しさを感じてくれたことで、少しでも地元住民への貢献ができています。

Q 最後にひとこと

組合の運営も4年目を迎え、ようやく軌道に乗ってきました。ただ、依然としてゆばと言ったら、京都や日光が有名で、身延のゆばはあまり知られていないのが現状です。そこで最近では、学校の給食にゆばを採用してもらい、子供達からの浸透を図っています。また、みのぶゆばは、生ゆばですので、日持ちしないため販売方法が制約されることもあり、新たな販路開拓と商品開発を検討中です。